

第2次国分寺市ビジョン等策定検討委員会（第2回）要点記録

日 時：令和5年11月14日（火）午後7時～午後9時

場 所：国分寺市役所 第一・第二委員会室

出席者：牛山委員長、山岸副委員長、山下委員、富田委員、田窪委員、鈴木委員、森木委員、
藤原委員、安東委員、内藤委員、前田委員、小田委員、小柳委員、井上委員、関口委員、
出町委員

欠席者：松本委員

傍聴者：3人

次第

- 1 開会の挨拶
- 2 委員自己紹介

議事

- 1 第2次国分寺市総合ビジョン等の策定状況について（資料1）
 - ・小中学生アンケート
 - ・若者ワークショップ
 - ・市民ワークショップ
 - ・職員ワークショップ
 - ・国分寺市市民参加プラットフォーム
- 2 新たな基本構想（国分寺市ビジョン）の検討について（資料2）
- 3 新たな基本構想の検討に向けた意見交換について（資料3）
- 4 その他

（会議録）

次第

1 開会の挨拶

牛山委員長より開会の挨拶を行った。

2 委員自己紹介

前回欠席の井上委員、関口委員、出町委員より自己紹介を行った。

議事

1 第2次国分寺市総合ビジョン等の策定状況について

事務局より資料1に基づき説明を行った。

副委員長： 若者ワークショップについて、どのように参加者を募集したか。また、グラフィックレコーディングの製作は専門家が行ったのか。

委員長： 市民ワークショップについて、住民基本台帳からの無作為抽出により参加者を募集したとのことだが、抽出した人数と申込者数を教えていただきたい。

また、職員ワークショップについて、令和2年度～令和5年度の入庁者を対象に参加者を募集したとのことだが、何名に声掛けを行ったか、副委員長の質問と併せて教えていただきたい。

事務局： 若者ワークショップの募集は、9月1日から9月26日までを申込期間とし、市のホームページ、公式X（旧Twitter）、市報にて周知した。加えて、事務局が市内の高校、高等専修学校、専門学校、大学を訪問し、ワークショップの概要を説明の上、各校に協力を依頼した。

市民ワークショップは、住民基本台帳から3,000人を無作為に抽出して案内を発送し、60人から参加の申込みをいただいた。当日の参加人数は、第1回が45人、第2回が33人となった。

職員ワークショップは、庁内各部に周知を行い、対象人数は把握していないが、29人の申込みがあった。当日の参加人数は、第1回が26人、第2回が29人となった。

また、グラフィックレコーディングは、ワークショップの運営支援として専門家が同席し、参加者の議論を踏まえてリアルタイムで製作した。

委員： Decidimについて、アクセス数やコメント数はどの程度か。

事務局： アクセス数の確認はできないが、登録者数が30人、コメント数が18件である。Decidim上には、各ワークショップのグラフィックレコーディングや発表内容を掲載しており、参加者の感想や発表内容に対する意見等がコメントされている。

委員： ワークショップで出た意見は、どのように活用することを想定しているか。

事務局： 新たな基本構想を策定する際の参考とさせていただく予定である。また、第2回市民ワークショップでは、第1回市民ワークショップ、小中学生アンケート、若者ワークショップの結果を共有し、それらを踏まえたアイデアを検討・発表していただいた。

委員： 第2回職員ワークショップについて、内容が「国分寺市の地域課題をデジタルで解決する方法」とのことであるが、どのような意見が出たか。

事務局： 具体的な発表内容は現在取りまとめ中だが、ターゲットを絞ったアプリを導入することで、市民が必要なサービスとマッチングできる仕組みを構築するといったアイデアが挙がっていた。

委員： 国分寺市における外国籍の人口は、約2,700人で総人口の2%以上となり、現在も増加傾向にある。小中学生アンケートや市民ワークショップにおいて、外国籍の参加者はいたか。

事務局： 外国籍の市民については、市民ワークショップの参加者募集の際に無作為で抽出した3,000人には含まれていたが、当日の参加は無かったと認識している。

2 新たな基本構想（国分寺市ビジョン）の検討について

事務局より資料2に基づき説明を行った。

3 新たな基本構想の検討に向けた意見交換について

事務局より資料3に基づき説明を行ったのち、資料4を用いて現行の国分寺市ビジョンの内容の検討、グループでの意見交換、全体への共有を行った。

（A班）：【未来のまちの姿の良い点】

- ・「魅力あふれ ひとつつながる 文化都市国分寺」の語感が良い。
- ・人を中心に考えている点は良い。
- ・「文化都市国分寺」という言葉に国分寺の独自性を感じられる。

【未来のまちの姿の改善点】

- ・説明の文字数が多いため、読み進めるうちに印象が薄れてしまう。
- ・市民に浸透させるためにも、覚えやすく印象に残るフレーズを考える必要がある。
- ・冊子のデザインについて、カラフルで見やすいという意見と見にくいという意見があった。

【まちづくりの基本理念の良い点】

- ・各表題の「ともに」がひらがな表記であり、柔らかい印象を受ける。

【まちづくりの基本理念の改善点】

- ・3つの理念が類似した内容に見え、分かりにくく感じる。
- ・文字数が多いため、文字量の削減やデザインの工夫が必要と感じる。

（B班）：【未来のまちの姿の良い点】

- ・国分寺らしさである歴史、文化財、科学、住みよさ等を踏まえた内容になっているのは良い。
- ・人を中心に考えている点は良い。

【未来のまちの姿の改善点】

- ・市政参加や協働における人材不足、道路の状況など、現時点での課題にどのように取り組んでいくか考える必要がある。

【まちづくりの基本理念の良い点】

- ・各表題の「ともに」がひらがな表記であり、柔らかく分かりやすい印象を受ける。

【まちづくりの基本理念の改善点】

- ・市民参加や協働の人材不足などの課題がある中で、市民に情報が伝わっていない印象がある。市・市民・事業者等の更なる情報共有を考える必要がある。

（C班）：【未来のまちの姿の良い点】

- ・国分寺らしさが網羅的に記載されている点は良い。
- ・「ひとつつながる」は概ね達成できていると感じる。

【未来のまちの姿の改善点】

- ・社会の変化を踏まえて、持続可能性、インクルージョン、マイノリティへの配慮といった視点を盛り込む必要がある。
- ・「「魅力あふれ」とは」に記載されているまちの魅力は、これまでに培われた要素であるため、最新の取組を記載できると良い。

・学校教育・社会教育・生涯学習など学びの要素を入れても良いと感じる。また、都市農業の「緑」については、現在の宅地化による農地の減少も踏まえた内容にすると良い。

- ・抽象的な表現があるため具体的・断定的な表現とした方が良い。
- ・文章が長いため、分かりやすい記述にする必要がある。

【まちづくりの基本理念の良い点】

- ・協働の視点があるのは良い。

【まちづくりの基本理念の改善点】

・「オール国分寺」は漠然としていると感じる。また、市・市民・事業者等のそれぞれの役割を具体的に記述した方が良い。

- ・行財政改革という文言が使われているが、分かりやすい表現にできると良い。

事務局：各グループの発表を受けて、委員長・副委員長からコメントをいただきたい。

副委員長：「みんなにとって国分寺市はどうあるべきか？」という視点を持ち、様々な立場・世代の人と意見交換をすることによって、新たな気づきや自身の意見の変化がもたらされる。それこそが市民参加や議論・討論の大きな目的ではないかと考えている。今回のワークにおいても豊かな議論が見られ、各班から様々な意見があった。

A班からは、内容だけでなく冊子のデザインから言葉遣いなど、作成した行政は気付くことが難しい読む側の視点で具体的な提案があった。

B班からは、長い年月によって培われたまちの強みについて言及があった一方、人口は増加しているが協働などの担い手が不足しているといった、市民参加に関する課題を指摘があった。どのようにして市民に参加の場に出ていただくか、人材の掘り起こしについては、検討が必要な課題であると考えられる。

C班からは、社会の変化により計画の内容と市を取り巻く実態に乖離があるとの指摘があったが、社会情勢の変化が急速な中で、適切な計画の見直し時期について考える必要があるという意見でもあったと感じる。

最後に、まちづくりの基本理念の「オール国分寺」という文言が分かりづらいという意見があったが、A班でも同様の議論がされていた。市民・事業者等という表現が対象を限定しているように見えるという意見もあったので、用語についても改めて検討する必要があると感じた。

委員長：今回の計画策定には、国分寺市の特徴が表れている。国分寺市総合ビジョンの計画期間は8年間であり、次期国分寺市ビジョンの計画期間は令和14年度までである。総合計画については、法的な定めはないため策定の義務は無く、計画期間も自治体で決めることができる。例えば、大田区は令和22年度を終期とした計画を策定中である。

計画の策定に当たっては、8年間分の出来事をどの程度盛り込むかも検討が必要である。安全安心の視点で言えば、首都直下地震の可能性といった諸条件を考える必要があるが、一方で未来に何が起こるかは不透明である。8年間の計画において、策定の段階でどの程度具体的な内容を盛り込むかは、検討する必要がある。

各ワークショップで頂いた幅広い意見を集約し、計画の内容に反映することになるが、多様な要素を取り入れたい一方で、内容が煩雑になることは避けなければならない。市民感覚という視点で、本委員会の委員から意見を頂きながら、計画の重心を考

える必要がある。「未来のまちの姿」の再検討に当たっては、国分寺市の歴史・文化やそれに関する教育など「国分寺市らしさ」が表れる内容になると良い。

最後に、ビジョンを市民にどれだけ認知いただくかは重要である。今回のワークでは、情報発信の在り方に関する指摘や、冊子のデザインや表現の見直し等により分かりやすくするといった多数のアイデアがあった。このことを踏まえて、8年後の国分寺市の姿を分かりやすく示せる国分寺市総合ビジョンを策定できると良い。

4 その他

事務局 : 各ワークショップの意見と本日の委員会で頂いた意見を参考に、基本構想の策定を進める。

第3回委員会は、令和6年1月16日(火)午後7時から開催予定である。議題としては、本年12月に国分寺市人口ビジョン(第3版)を策定する予定のため、結果を報告するとともに、基本構想の素案をお示しし、御議論いただきたいと考えている。

委員長 : これをもって第2回第2次国分寺市総合ビジョン等策定検討委員会を閉会する。

以上